

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえ、各教科等において、育成したい資質・能力を明確にし、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図っていく。	中間評価	発問や授業展開、児童の思考の支えや顕在化に効果的な板書の仕方について学年の垣根を超えて共有、協議できている。	最終評価	
環境作り		時間や場所の制約に対してICTの活用や、効率化を図り、先行研究に触れながら実践研究を行い指導力の向上に努める。		学校行事やタブレット端末を各教科と効果的に関連付け、活用することで主体的で対話的な深い学びを意識した授業実践を重ねられている。		

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課題（10月）	改善のための取組（10月）	最終評価（2月）		
1	国語	<ul style="list-style-type: none"> 学 説明的な文章における精査・解釈については、教科書の叙述の中から重要な語や文を読み取ることはできているが、図鑑や科学的読み物などから読み取ることができない児童が多い。 学 読書習慣がない児童が多い。 学 家庭学習を継続して行える児童は多い。 学 識字率は高いが、カタカナや漢字が読めていない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書習慣を付け、多様な文章に触れること。 ・登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基にとらえること。 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて読むこと。 ・長音や拗音、促音、撥音などの表記、助詞、句読点、かぎなどの表記や使い方。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事物の仕組みや特定の動物や生物を説明した文章などに触れる機会を増やし、短い解説の文から順序や重要な語句を読み取る経験をさせている。 ・手紙を書く活動を増やし、児童自らが推敲したり、互いの文を読み合ったり、表記の仕方をアドバイスし合ったりする活動を行っている。 			
	算数	<ul style="list-style-type: none"> 学 1位数の加法と減法は90%以上の児童ができていますが、繰り上がりや繰り下がりのある計算が習熟度はまだ低い。 学 日常生活の中で経験している時間や長さの比較などは理解度が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り上がり、繰り下がりのある計算やその仕組み。 ・具体的な場面に基づいて、数量の関係に着目し、計算の意味を考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の数の見方（10とあと幾つなど）に着目し、具体物や図などを用いて、未習の計算の仕方を考える活動を行っている。 ・ICT機器を活用し、計算練習を日常的に行っている。 			
学年	教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）	最終評価（2月）	
2	国語	<ul style="list-style-type: none"> 学 スピーチ活動や、話し合いの機会は環境を整えて取り組むようにしている。話し手の方を向いてスピーチしたり、聞くルールを浸透させたりすることにより、相手を意識して話す・聞くことができるようになる。 学 読書活動を積極的に取り入れているが、登場人物の気持ちを想像できるようにするための学習が必要である。 学 日記を書かせているが、一文や二文で終わる傾向がある。 学 家庭学習の提出率は90%を超えており、100%を目指して取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを、順序を意識しながら話をする力を育てること。 ・物語文については、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する力を育てること。 ・自分の思うことや感じていることを日記に書く習慣を育てること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・順序を表す言葉に着目して読んだり、構成カードを用いて書いたりすることで、順序を意識できるようにする。 ・音読や辞書引きに取り組むことで、語彙を増やし、内容読解力を高める。 ・日記に取り組むことで文章力を高める。 ・言葉に着目して読み、想像したことを書き込むようなワークシートや板書を工夫することで、読みを深められるようにする。 ・タブレット端末を活用して国語の漢字の基礎基本の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・構成カードを用いた活動を、引き続き行っている。順序を意識した文章が書けるように引き続き指導する。 ・辞書引きを継続している。自らすすんで辞書を利用することができるようになってきている。 ・毎日日記に取り組ませている。児童が自分の思いを書き綴ることができるようになり、書く楽しさを感じるようになってきた。 ・読解力を付けるために、主人公や登場人物の気持ちをワークシートやノートに書く活動を引き続き取り入れる。 ・学習の定着の時間でタブレットを活用し、ワークテストやデジタルドリルの正答率を見て基礎基本の定着が見られるようになった。引き続き積極的に活用する。 		
	算数	<ul style="list-style-type: none"> 学 毎日計算に取り組むことで多くの児童に計算の定着が見られる。しかし、たし算やひき算がまだ定着しきれていない状況が一部で見られる。 学 ICTを活用して、問題場面を視覚的に提示したことが、問題の理解につながった。さらに加法、減法の意味を理解し、問題場面や式の意味を理解する力を育てる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たし算、ひき算の筆算や乗法九九などの基本的な計算技能を身に付けること。 ・加法、減法の意味を理解し、問題場面や式の意味を理解する力を育てること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物の操作や図で表現する活動を通して、加法、減法の意味を理解させるとともに、筆算の技能を身につけさせる。その際、ICT機器を有効的に活用する。 ・タブレット端末を活用して算数の計算の基礎基本の定着を図る。また、繰り上がりが繰り下がりでつまずかないように、繰り返し指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乗法の指導では、児童が自ら、かけ算のままりの性質を発見できるよう、絵や図、言葉や式など様々な表現方法で自分の考え方を表せるようにし指導する。 ・学習の定着の時間でタブレット端末を活用し、ワークテストやデジタルドリルの正答率を見て基礎基本の定着が見られるようになった。引き続き積極的に活用する。 		
3	国語	<ul style="list-style-type: none"> 学 令和3年度に実施した新宿区学力定着度調査では、教科全体の正答率は82.9%で、目標値を6.0ポイント上回っていた。 学 同調査「文章を書く項目」では、目標値80%に対して、正答率は59.3%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、正しい表現技法で文章を書くこと。 ・テストにおける無回答率が高い問題があること。特に、記述式の問題の無回答率が高いこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日記の取組を毎日行うことで文章を書く習慣を身に着ける。 ・デジタルドリル等を活用し、興味をもって、漢字やことわざなどの練習を行えるようにする。 ・書く目的を明確にして、相手意識をもって文章を書く回数を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常だけでなく、行事ごとの振り返りを行い、日記を書く習慣化ができてきた。 ・ことわざや漢字に関する学級文庫の充実やデジタルドリルを活用したことで、日記などにことわざや漢字を使用する児童が増加し始めた。 ・お礼の手紙や感想文など、相手を意識しやすい場面を設定することで、意欲的に書く児童は増えている。引き続き行っていく。 		

	算数	<p>学 令和3年度に実施した新宿区学力定着度調査では、教科全体の正答率が79.5%で、目標値を8.6ポイント上回った。観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「思考・判断・表現」が71.0%で、目標値を14.7ポイント上回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 筆算の繰り上がりなど、計算の仕組みを十分に理解すること。 立式の仕方を正しく理解しておらず、乗数と被乗数の関係性を表せないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に、生活と算数を関連付ける場面を通して、知識を活用できる場면을意図的に増やしていく。 乗法の問題を作ったり、文章問題を図に表したりする活動を行うことを通して、乗法の意味を理解させるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 小数や分数などの学習後、授業や生活場面に結びつく場面で話題に出す機会を増やした。 問題作りを繰り返すことで、乗数や被乗数の関係に気づき意識した式を作り方が定着していった。また、デジタルドリルを通して、様々な問題に取り組み、問題を解くことに慣れていく。
4	国語	<p>学 令和3年度に実施した新宿区学力定着度調査「言葉の学習」の項目では、漢字の音読みと訓読みについての観点で正答率は目標値65%に対して、正答率は47.1%であった。</p> <p>学 同調査「説明文の内容を読み取る」の項目では、叙述を基に文章の内容を捉える観点について正答率は目標値75%に対して、正答率58.8%であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の音読みと訓読みについて正しく理解したり適切に活用したりすること。 叙述を基に文章の内容を適切に捉えること。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業において、漢字や言葉の意味を意図的に調べる活動を取り入れ、読み書きに慣れ親しむ。また、書く活動の中では、熟語だけに着目するのではなく、前後の文脈の中で、使い方も押さえられるよう指導を図る。 説明文の指導の際に、それぞれの段落で何を述べているのか、中心は何か、といった段落ごとの要点を押さえる学習場面を設定する。また、段落の中で中心になる文を見付けたり、それがいくつかの文にわたっているときには一文にまとめたりする活動も繰り返す。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べる活動、書く活動の中で、辞書の活用を積極的に授業に取り入れたことで、語句の意味やその言葉を使った文章を作るなど、漢字に着目できるようになってきた。 叙述に着目したり、段落の要点を押さえたりする学習場面を設定し、指導したことで、段落相互のつながりを読み取ることができてきた。
	算数	<p>学 令和3年度に実施した新宿区学力定着度調査では、教科全体の正答率が69.8%で、目標値を2.9ポイント上回った。観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「知識・技能」が76.4%で、目標値を2.9ポイント上回った。</p> <p>学 4けた－3けた＝3けたの計算に課題が見られた。減法の計算問題では、計算するけた数が増えると、位がずれる、繰り下がりがあることを忘れて計算するなどの間違いがみられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 身近にあるものの量の大きさを推察して、適切な単位を用いて表現できるようにすること。 中学年までに学習する計算技能を定着させること。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常でよく使うものや身の回りにあるものを通して、基本的な量の大きさの感覚を豊かにできるよう、活用場面の充実を図る。 方眼のマスを意識して計算に取り組むこと、繰り下がったときには、被減数を斜め線で消すなど、計算の過程をひとつひとつ確認して進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 実感を持った量感覚を養うために、できるだけ具体物に触れる機会を増やした。 タブレット端末による習熟に加え、計算ドリルノートやプリント学習を進めてきた。引き続き行う。
5	国語	<p>学 令和3年度に実施した新宿区学力定着度調査では、教科全体の正答率が71.6%で、目標値を4.1ポイント上回った。観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「思考・判断・表現」が69.9%で、目標値を7.2ポイント上回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中学年までに配当されている漢字を正しく書くこと。 漢字を文中で正しく書くことができること。 文の構成を考え、指定された長さで文章を書くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語科の漢字指導の際に小テストを繰り返し行い、習熟を図る。テスト前にデジタルドリルを活用し習熟を図る。 他教科の書く活動などの中でも、既習漢字を文中で使うように指導する。また、文章を長く書くときに見通しが持てるように、メモを活用し文の構成を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返しの学習により、正しく読んだり書いたりする力は伸びてきた。文章の中で習った漢字を使うことを意識させ、引き続き定着させていく。 学習感想等、視点を明確にして文章を書く活動を取り入れたことで、書く力がついてきている。引き続き行う。
	算数	<p>学 令和3年度に実施した新宿区学力定着度調査では、教科全体の正答率が68.8%で、目標値を3.3ポイント上回った。すべての項目で目標値に達している。中でも、「思考・判断・表現」が61.5%で、目標値を6.15%で、目標値を6.0ポイント上回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 垂直、平行な直線やいろいろな四角形を正しく書けるようにすること。 大きな数や概数を正確に表すこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 図形指導ではデジタル教科書を活用し模範解答を提示しながら、操作的活動を取り入れ図形への理解を深めていく。 デジタルドリルを活用し、個の課題に応じて繰り返し概数の処理ができる課題に取り組みさせる。 マスを意識したノート指導を丁寧に行い、計算等のケアレスミスを防ぐように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 図や式、言葉を使い、自分の考えを説明する活動を継続して行う。 直方体や立方体の体積の学習ではデジタル教科書を活用することで、立体的に問題を把握して理解を深めることができた。 デジタル教科書の利点を生かし、引き続き活用する。 学力の個人差があるので、習熟度別指導の中で実態に応じた授業展開を工夫する。 ノート指導を引き続き丁寧に行い、ケアレスミスを防ぎ確実に計算ができるように指導する。
6	国語	<p>学 令和3年度に実施した新宿区学力定着度調査では、教科全体の正答率が72.4%で、目標値を3.9ポイント上回った。観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「思考・判断・表現」が74.0%で、目標値を6.3ポイント上回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 指定された長さで文章を書くこと。 第5学年までに配当されている漢字を正しく読むこと。 話し合いの内容を聞き取ること。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書活動を充実させ、漢字を読んだり文字数を指定して要約させたりする経験を積ませる。 相手意識をもって正しく文章を書く活動を取り入れ、既習の漢字についての習熟を図る。 話の内容を明確に捉えられるよう、話し手の目的や自分の聞こうとする意図を意識して聞かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習や物語文で他の作品を読む活動を行っていることで、漢字を読む機会が増えている。 教科横断的な指導を意識し、他教科でも目的意識や相手意識をもって文章を書いたり、キーワードを用いて短い言葉で考えをまとめたりする活動を増やしたことで、文章をまとめる経験は増えた。今後も指導を充実させる。
	算数	<p>学 令和3年度に実施した新宿区学力定着度調査では、教科全体の正答率が73.2%で、目標値を10.0ポイント上回った。観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「主体的に学習に取り組む態度」が60.6%で、目標値を12.7ポイント上回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小学校で学習した基礎的な知識や計算技能などを確実に身に付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルドリルや教科書「ふりかえろう」の活用をし、既習事項を繰り返したり、立ち返ったりする指導を取り入れる。 家庭学習は、個の課題に応じて分量や内容を変える工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の導入時に既習事項の確かめを行ったり、ペアで共有したりすることで全体の理解が深まってきている。個別に指導が必要な児童もいるため、学習内容の系統性と児童の課題を合わせてみながら、少人数指導のクラス分けや指導方法を工夫する。

音楽	<p>学 自己評価や学習感想、発表を通して、友達の表現の工夫や良さに気づき、自分の感じ方や考え方を広げて、意欲的に取り組む姿が多く見られるようになった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽的な見方・考え方を働かせ、自分の思いや意図を表現すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでの活動や発表を通して、意見を交流する場面を多くつくることにより、自他の違いや共通点に気づき、自分の考えに自信をもち根拠をもって表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでの意見交流や発表を通して、自分の考えに自信をもち表現を工夫することや、友達の良さに気づき改善することができるようになってきた。個に応じた指導も継続して行う。 	
図工	<p>学 鑑賞のポイントをおさえ、よさや違いを感じさせる場面を増やすことにより、個人の表現に活かせるようになってきた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分らしさを生かしてデザインを考えること。 ・見通しをもって活動すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインを考える時は、タブレット端末なども使い幅広く資料を集められるようにする。 ・大きな活動の流れをあらかじめ提示し、意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインのイメージをふくらませたり、形やポーズなどを調べたりするのに、タブレット端末を活用している。 ・その日の活動の流れやめあてを授業の始めに提示するようにする。 	
特支	<p>学 特別支援教育コーディネーターや、特別支援教室専門員が、日頃から児童の様子や対応について共通理解したり、話し合ったりすることで、担任の特別支援教育に対する理解が深まった。</p> <p>学 必要に応じて校内委員会を開催することにより、対応が迅速になった。また、巡回相談を有効活用するために、日頃から情報収集に取り組んだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の特別支援教育に対する一層の理解を深めるために、担任と巡回教員との連携を強化すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーターと特別支援教室専門員が在籍学級での様子や実態、まなびの教室での様子を共有していくようにする。 ・生活指導夕会を活用し、学級内の特別支援を必要とする児童の学校全体で情報を共有していくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間は不定期だが、まなび教員と各担任とが話し合える時間をとれるようにしている。今後も継続していく。 ・生活指導夕会を活用し、情報の共有を行っている。また、必要に応じて臨時校内委員会を開催し、迅速に対応できるようにしている。 	